

令和2年3月3日(火)に第55回卒業式が挙行されました。

卒業生279名全員に卒業証書が手渡され、学び舎を巣立っていきました。

別れのさみしさもありますが、未来に進んでいく卒業生の晴れやかな笑顔に保護者、教員は万感の思いを胸に旅立ちを見送りました。



#### 令和元年度 在校生代表 送辞

北国の冬の寒さも日に日に和らぎ、降り注ぐ暖かい日差しに春の訪れを感じる今日の良き日に、盛岡第三高等学校を卒業なさる卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生徒一同よりお祝い申し上げます。

私たちにとって先輩方は、学校行事においては私たちの憧れの存在、普段の学校生活においては私たちの模範となる存在として、私たちに対し、良い影響を与え続けて下さいました。

体育祭では、行事を円滑に進める工夫をされ、競技者への配慮の気持ちを忘れずに行事の運営や競技の審判に真剣に取り組まれる姿勢が印象的でした。

三高祭では、ご来校下さる方々こそが主役であるという自覚を持ち、三高生1人1人がスタッフとしてお客様をお迎えしました。明るい挨拶やお客様への丁寧なご案内、工夫を

凝らしたクラス企画で、会場が笑顔で包まれていました。このことを通して、先輩方が他の人のための苦勞を惜しまず、人を楽しませることができるといふことを知ることができました。また、学年全体で協力して準備、後片付けをされていた様子からは、積極的に行動することができ、協調性を持って活動することができるといふことを感じ、その姿に憧れを抱きました。

また、普通の学校生活においては、私たちに対して三高生としてのあるべき姿を示してくださいました。例えば、テストの時間の廊下でのカバンの並べ方一つをとっても、そのことがうかがえます。すべてのカバンのチャックがきちんと閉められており、通行する人のための通路が十分に確保されるよう、それがきれいな列を作って並べられていました。常に周囲を見渡し、忙しい日々の中でもやるべきことを当然のようにこなしていっしょにやる先輩方は、人としてぶれない強い芯を持っていっしょにやる方々であるといふことを感じることができました。

先輩方は三高での3年間の学校生活を通して身に付けられた主体性を活かし学校外においても、ボランティアや、地域のイベントなどの活動において活躍されてきたことと思います。社会に目を向けてみると、日本の職業の多くが、まさに人工知能いわゆるAIに取って代われようとしています。AIにより機械が自ら学習し発展していくことができるようになりました。しかしそれでも、AIは、人の手によって開発された、目的達成のための受動的な存在に過ぎません。三高の先輩方は、AIにはない主体性や、人を思いやり、行動する力を持っている素晴らしい方々ばかりです。変化が多く、不安なことも多いこの時代においても、三高で学んだことを生かし、今後ますます活躍されることと信じております。

結びになりますが、新たな時代、令和になり、大きく変化していくこの時代を生きるこれからの私たちのあるべき姿を私たちに示してくださいましたことへの感謝と、瞳輝く未来のリーダーとしての今後のさらなるご活躍への期待の意をここに示し送辞といたします。

#### 令和元年度 卒業生代表 答辞

本日は、私たちのためにこのように盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。

振り返れば、一抹の不安と大きな期待を抱き、この場所で入学式にのぞんだあの日から始まった盛岡三高での3年間は、本当にあつという間でした。

何もかもが新鮮で新しかった1年生。Respectのスローガンのもと私たちの学年は始まりました。右も左もわからないまま先輩方の大きな背中を必死に追いかけました。三陸実習などを通して人と人の繋がり大切さを学び、自分自身を見つめ直す経験をしました。ただただがむしゃらに突っ走りながらも、思いやりと、相手を敬う心を学んだ1年間でした。

Maximumのスローガンのもと始まった2年生。部活動や生徒会をはじめ、何もかも自分たちが主体となってゆくプレッシャーを感じました。手探りで道を拓き壁を越えてゆくことは正直きつかったです。しかし、そんなとき、私たちは一人ではないと気づかされもしました。修学旅行などを通して仲間との絆をさらに深めることもできました。苦しさを全力で楽しみ、努力できた1年間でした。

そしてInspireのスローガンのもと迎えた最終学年。仲間と最後まで戦い抜いた部活動。やり抜いたからこそ、肉体的、精神的、そしてなにより1人の人間として大きく成長できたと思います。全員で大いに盛り上がった体育大会。生徒だけでなく多くの地域の方々にも楽しんでもらえた三高祭。これらを通して互いに、そして多くの人にInspireできたのではないかと思います。そして今、受験という新たな試練と闘いつつあります。なぜこんなきついことをやっているんだと思うこともありましたが、自分の道をつかむという目標と、共に戦う三高の仲間がいるからこそ頑張れていると思っています。

三高での三年間は、人生の宝であり糧となると今確信しています。何より、互いに高め合い、いつでも寄り添い合える最高の仲間に出会えたことを本当に嬉しく思います。また、この三年間を通してたくさんの人に支えられたことに心から感謝しています。私たちに真摯に向き合い、勉強以上に大切なことを教えてくださった先生方。そして、いつも私たちを見守り、支えてくれた家族。皆さんの存在と応援がなければ、私たちは今ここにいません。本当にありがとうございました。

在校生の皆さん。皆さんに伝えたいのは「挑戦」という言葉です。現状にとどまらず挑戦してください。挑戦にはリスクが伴います。失敗もあります。やっても意味ないんじゃないかということもあります。しかし、挑戦するからこそ新たな可能性が見えるのです。自分の夢に向かって挑戦し続けてください。

私たちはこの三年間学年スローガンとしてBreakthroughを掲げてきました。2001年、21世紀の始まりの時にこの世に生を受けた私たちは、令和元年度の卒業生として、新たな時代を創る使命があるはずです。私たちはBreakthroughの言葉を胸に、困難に打ち勝っていきます。そして不死鳥のごとく何度でも立ち上がり自らの手で未来を切り拓いてゆくことをここに誓い、今日、私たち盛岡第三高等学校55回生279名は卒業します。

終わりに、盛岡三高のさらなる発展と活躍を祈念し、答辞といたします。